2015.10.13

JR 海芝浦駅とかもし堂見学体験レポート

【日時】平成 27 年 9 月 18 日（金）9:00～13:30

【見学場所】鶴見線海芝浦駅、かもし堂の発酵食品の試食会

【目的】ミニツアーの下見見学。なかなか行けない海芝浦駅の非日常体験とかもし堂の発酵食品弁当の味見会と発酵食品の体験教室などの下見。

【メンバー】川崎の産業観光を支援する会の役員

若井伸枝、佐藤節子、石毛茂雄、西山孝、滝澤照義、根岸雅明、以上６名

【見学概要】鶴見駅→海芝浦駅→川崎新町…徒歩…松尾芭蕉句碑…解散

【日記】ＪＲ鶴見駅で皆さんと待合せて海芝浦駅で下車。ここは東芝京浜の工場敷地内であり、工場関係者以外は構内に入れない場所になっている。改札を出ると駅の脇に小さな公園があり、ここで折り返しの電車の時間まで景色を楽しむ。

目の前に広がる景色は正面に扇島が広がる。京浜運河の向こうに鶴見つばさ橋、ＪＦＥスチールの工場の建物、タンクなどが見える。目の前が遮るものが無いのでとても広々とした感じだ。

海芝浦駅から折り返しの電車に乗り、浅野駅で乗り換えて、扇町行きの電車に乗り、浜川崎で乗り換えて、今度は南武線支線の尻手行きに乗り、川崎新町で下車。たったこれだけの区間で２回乗り換える。乗り換えにはスイカをタッチしないように注意する。乗り換えなので下車とは違うので皆からタッチしないように言われる。どの駅も無人駅だ。都会の真ん中の駅でこのような体験をするのも面白いなと思いました。

かもし堂はロケ弁グランプリを受賞したお店だそうです。特徴は発酵食品を使っていろんなアイデア料理なども提案しているようです。発酵食品？と思いましたが、醤油、味噌、納豆、ヨーグルト、それに 2015 年 9 月 4 日に仲間達と味の素工場を見学しましたが、サトウキビを絞ってその糖蜜を発酵させてうまみのグラミン酸を作り出す行程を知りました。これも発酵なのですね。

かもし堂の名前の由来は発酵の醸す（かもす）という事でかもし堂とつけたと知りました。私は山が好きでカモシカ堂と言っていたのでみなから笑われました。
ランチをいただきました。塩麹のサバ、サワラ、豚肉とそれぞれお好みのお弁当を注文していただきました。うまみ体験ではないですけれど塩麹にねかしたサバはとても美味でした。これもうまみなんでしょうね。

食事が終わるころご主人の長谷川さんが帰られてお話をお聞きしました。体験教室や工場見学もできるとの事でした。

食事後、歩いて八丁畷駅近くにある松尾芭蕉の句碑を見学しました。「麦の穂をたよりにつかむ別れかな」松尾芭蕉が国に帰る時に弟子たちと別れる時に読んだ句だそうです。

私たちの身近にある風景が異次元の世界であるような錯覚を覚えたミニツアーの
下見の見学会でした。この体験はみなさん新鮮に映るのではないかと思いました。

【写真】

海芝浦駅の前の京浜運河に広がる景色。
鶴見つばさ橋、扇島パワー（火力発電所、ＬＮＧを燃やして電気を作っている。）約84万キロワット。東京瓦斯と昭和シェル石油で共同運営している。

赤と白のタンクはＪＦＥスチールのガスホルダーだと夜景ナビゲータの若井さんから説明を受けました。工場夜景の時に良く説明をされるそうです。

鶴見つばさ橋

大黒埠頭のインターチェンジとベイブリッジ

ロケ弁グランプリを受賞したかもし堂のお店。

メニューが貼ってありました。かもし堂のランチセットをいただきました。

東京農大の発酵仮面でおなじみの小泉武夫先生の写真もありました。
小泉先生はテレビなどにも良く出ていますよね。

サバの塩麹のランチ。
私はこれをいただきました。
味噌汁もとても味が深いでした。

このランチは何だったのでしょうか。
たぶん豚肉の塩麹だったと思います。石毛さん、滝澤さんが食べましたかね。

お店のご主人長谷川さんと。

八丁畷の駅の近くにある松尾芭蕉の句碑の案内

麦の穂をたよりにつかむ別れかな

美味しい発酵ランチをいただき満腹感で松尾芭蕉の句碑まで歩きました。天気も良くとてもいい散歩と異次元のような体験をした下見でした。

ミニツアーが実現できればいいなと思いました。